

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103995
法人名	株式会社ファミリーケア
事業所名	ファミリーケアなかの
所在地	松山市中野町甲293-2
自己評価作成日	平成28年8月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 9 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆様方が楽しく安全に生活を送っていただける様、日々努めている。
スタッフ間の情報の共有に努め、全スタッフで支援の方向性を検討し統一している。
得意分野や好きな手伝いの提供など、一人ひとりの能力や役割を大切に、生きがいを持って生活を送っていただける様、努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設より13年目を迎える事業所は、「利用者様やその家族の方の夢に向かい努力します」という理念を掲げ、利用者職員が笑顔で過ごし、利用者が得意としていることや能力を発揮して、一人ひとりが役割を持つことで生きがいを持って暮らせるよう支援している。職員は聞き上手に徹して利用者の思いや意向の把握に努めると共に、利用者のペースに合わせた支援を心がけている。事業所ではご近所付き合いを大切に考え、ごみ置き場を提供したり、川掃除等地区行事に積極的に参加しているほか、事業所の行事に地区の人々を招待して交流している。家族会では職員と共に食事づくりをして会食しながら懇談して親密な関係を築き、家族と職員が協力しながら利用者を支援している。また、利用者と家族の要望に応じて看取りケアに取り組み、協力医と家族の協力のもと利用者が穏やかで自然な最期を迎えることができるよう支援しており、家族に感謝されている。幅広い年齢層の職員が心を合わせて利用者本位のケアを実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ファミリーケアなかの

(ユニット名) 1階ユニット

記入者(管理者)
氏名 曾根 直矢

評価完了日 平成 28 年 8 月 14 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 当ホームの理念である「利用者様やその家族の方の夢に向かい努力します。」を念頭に置き、スタッフ全員で支援の方向性を検討・統一し、生きがいのある生活を送って頂ける様、日々努めている。入社時にオリエンテーションを行い、理念についての話し合いの場を持っている。</p> <p>(外部評価) 「利用者様やその家族の方の夢に向かい努力します」を理念に掲げ、利用者が生きがいを持って笑顔で暮らせるよう支援に務めている。職員は利用者の背景を理解し、一人ひとりが大切にしていることや好きなことを見つけてその能力を発揮できるよう支援している。理念は玄関やユニット入口に掲示し共有している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) ごみ置き場の提供、秋祭りには地域の方々の休憩所として使って頂き、まもるくんの家に登録し立ち寄りやすい場である様にし、また町内の川掃除も参加している。クリスマス会は近隣の方にも来て頂いている。ボランティアの方々にも来て頂いている。近くの施設のバザー等に出向き交流を持っている。</p> <p>(外部評価) 事業所は、近所付き合いを大切に考え地域住民にごみ置き場を提供したり、職員が地域の川掃除に積極的に参加している。利用者は、地方祭での神輿や獅子舞が訪れるのを心待ちにしているほか、事業所が開催するクリスマス会では近所の方がフラダンスを披露したり、児童養護施設の子どもたちの踊りがあり、一緒にケーキを食べるなど交流している。また利用者は、近くの障害者施設からバザーの招待を受け、小遣いを持って出かけるのを楽しみにしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 利用者のご家族様の知人などの相談を受けている。認知症、介護方法などで悩んでいる方の相談の場として、運営推進会議や家族会に参加出来る様、窓口を広げている。認知症高齢者SOSネットワークの説明・呼びかけを行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) ご家族、介護保険課、地域包括、近隣住民に参加をして頂き、状況報告、加算、食事メニュー、看取り介護、SOSネットワークなどについて話し合い、意見を頂いている。また、お花見、クリスマス会の時に運営推進会議を行いご家族間や地域の方々との繋がりを深めるようにしている。他施設利用のご家族の話聞かせて頂き、質の向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議では、利用者の状況、活動状況や研修報告を行い意見交換を行っている。近隣住人から家族が他事業所を利用しての感想等を話してもらい、改めて家族の思いや利用者の権利について考える機会にしている。また、多くの家族に参加してもらうため、花見やクリスマス会を同時に開催するなど、家族間や職員との交流の機会を持って親睦を深める取組みを行っている。会議は共用スペースで行っており、出席できない職員も仕事をしながら、様子を伺うことができる。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 介護保険課や地域包括の方に運営推進会議に参加して頂き、相談・助言を頂いており、その場で分からないことは持ち帰り適切な助言を頂いている。また必要に応じ電話にて相談をしている。</p> <p>(外部評価) 市や地域包括支援センター職員は運営推進会議に参加して事業所の実情を把握している。市担当者とは顔見知りの関係になっているため、介護保険制度等分からないことは電話で問い合わせをするなど指導してもらっている。地域包括支援センターとは事業所の空き状況等について情報交換などを行っている。また、市生活福祉担当者は年2回来所し利用者の状況の確認を行う等の支援を行っている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 施錠はせず、転倒の危険性のある場合はセンサーマット、鈴などの利用にて四点柵の拘束も行っていない。身体、言葉、服薬にての拘束防止の事業内研修も行っている。</p> <p>(外部評価) 事業所では職員に身体拘束についての認識を持ってもらうため、年1回研修を行っている。玄関は日中施錠せず自由に入ることができるようになっている。転倒の危険が予測される利用者には、家族の了解を得てセンサーマットを使用したり、ドアノブに鈴をつけて転倒防止に努めている。利用者が夜自然に睡眠できるよう、日中は活動的に過ごし必要以上服薬しなくてよいよう支援している。また、言葉の拘束についても留意し、不適切な声かけを行わないよう職員間で確認するほか、ミーティング等でも話し合っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修などに出席したスタッフから虐待防止に関する内容を報告し、現在の介護方法が虐待になっていないか全スタッフで話し合い、検討し、相互間で注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 十分な理解は出来ていない。不明な点は市・社協に相談をしている。現在、活用している方はいないが、今後の為、十分な知識が必要と考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に利用者の方や家族の方に分かりやすい説明を心掛けており、納得して頂けるよう努めている。後日、不明な所などあれば随時説明を行っている。法改正など変更が生じる際には速やかな対応と説明を十分に行っており、運営推進会議の際に再度詳しく説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議にご家族、地域の方々に参加して頂き、ご意見、ご要望を頂いている。また面会時には利用者の方の様子を説明し、ご家族のご意見やご要望を伺い、全スタッフに申し送りをし、想いを共有している。ご家族の方のご意見やご要望を伺い、ミーティングなどの際に話し合い、検討しより良い支援に繋がる様、努めている。必要時にはご家族と話し合う機会を作っている。 (外部評価) 職員は家族と良好な人間関係を持ち、共に支援していきたいと考えており、家族が意見を言いやすい環境づくりに努めている。運営推進会議で、新入職員が誰か分かり難いという家族の意見を受け、事務所横に顔写真と一言紹介文を掲示する等、速やかに対応している。また、年2回家族会を開催し、会食や懇談をしながら意見を聞くよう工夫している。県外に住む家族へは毎月の便りに手紙を添えて送り、関係が途切れないよう配慮しているほか、退所した利用者家族との交流も継続しており関係の深さが感じられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 思いや意見を言いやすい環境作りに努めている。意見箱も設置しており、職員が直接本社へ意見が出来る様になっている。本社と直接、話しが出来るよう機会も作っている。	
			(外部評価) 職員は管理者を信頼しており関係も良好で、意見や提案も気兼ねなく出すことができています。高額な感染防止機能の高いマスク等の購入希望を管理者に進言し、実現に至った例もある。また、後輩職員の手本になるような長年勤務のベテラン職員も多く、的確なアドバイス等がもらえるので職員の資質向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 評価シートを使用し、半年ごとに各自の目標を書くことにより、向上心を持って業務に取り組むことが出来ている。半年後には管理者や主任との面接で評価を行い、今後の目標、業務へと繋げている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内研修・外部研修の案内を職員に伝え希望者、または必要と思われる職員には受講できるよう考慮している。また、研修報告を行い全員のスキルが高まるようにしている。新人職員には、今、目標とする事を示しスキルアップにつなげている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議参加の案内はしているが出席はして頂けていない。他事業所との繋がりを持てるよう連絡会には参加するようにしている。研修時には他事業所とも交流を持つようにしている。他施設をご利用のご家族の話聞かせて頂き、サービスの向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前にはご本人、ご家族の方にホームを見学して頂き、話し合いの場を設けている。ホームに来られない方には訪問し、お話をさせて頂いている。ホームで安心して生活して頂けるようご本人の要望、不安など言いやすい環境づくり・ご利用者同士のより良い関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に面談し、ご家族の要望をしっかりと聞き取り知り得た情報は職員全員が理解と共有を行い、安心して頂ける様、努めている。気になる事があればその都度ご本人、ご家族様へ報告を行い速やかに対応を行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人、ご家族様の希望を面談時にしっかりと聞き取り、今、必要としていることを見極め支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 調理や洗濯物の取り込みなど各入居者の方の役割を大切に、声掛けなどにてお手伝いをして頂いている。その際、体調や気分なども考慮し、無理強いせず行なって頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月のお便りやブログなどで近況を報告したり、外出行事、お花見、クリスマス会には手伝って頂き、職員や家族間同士の繋がりを持てるようにしている。家族様との連絡を密に取り合い、様々な問題を共有しながらより良い支援が出来るように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人が訪ねて来ることもあり、居室にてゆっくりとお話しをして頂いている。遠方の親族の方との手紙のやりとりや、面会に来られた際にもゆっくりとお話しをして頂いている。自宅に戻ったり外食されたりしている。 (外部評価) 昔から通い慣れた美容室へ職員が付き添い出かけたり、家族の同伴で理髪店に行くなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。携帯電話を持っている利用者は、友人知人と話しをすることができ、訪ねてきた友人と居室でゆっくりくつろぐことができている。家族の協力により法要のための帰宅や外泊する利用者もいる。また、近隣の児童養護施設の子どもの来訪や手紙のやりとりがあるなど、新しい馴染みの関係もできている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 洗濯や食事の準備・盛り付けなど、出来る事・出来ない事を利用者同士で協力し助け合いながら行っている。レクリエーション等にて利用者さん同士で交流を持てる様に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 記録などは規定に基づき保存し、いつでも提供できるようにしている。また、ホームを出られた方にはいつでも相談を受けられる体制を整えている。退所された方ともお付き合いを大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 無理強いせず、自分のペースで穏やかに安心して生活が出来るよう努めている。訴えや気になることがあれば毎日の申し送りなどに話し合いを行い速やかな解決に努めている。意思表示が困難な方は表情や単発的な発語などにて読み取るようにつとめている。追記シートを新たに作り、気づきを記入し全職員の情報共有のツールとなっている。 (外部評価) 職員は利用者の思いを聞き逃さないよう、常に注意を払っており聞き上手に徹している。風呂は何でも言いやすい環境のため、入浴介助のタイミングを見計らい浴室で聞くこともある。知り得た要望等は申送りシートに記載し職員間で共有しており、実現に向けて業務に励んでいる。把握するのが難しい利用者は、家族に聞いたり日頃の様子の変化などから判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前の話し合いの時に、ご本人の生活状況、好きなことなどを聞き取りを行い、その情報を職員全員が共有し、その人らしい生活が送れるよう努めている。入所後も本人、その家族と話し合い、新たな情報を頂けるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日頃の関わりの中より出来ること、出来ないことを見極めている。利用者の行動や表情をよく観察し、何かあれば申し送り時等に話し合いを行い心身の状態把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人・ご家族の想いや意見、要望を伺い、話し合いの中でケアプランを作成している。必要に応じて見直しを行っており、ケアプラン変更時は、A, B, Cで評価(A達成・B継続・C出来ていない)している。モニタリングの内容もケアプランに記入し、経過や結果を分かりやすくし、次回の介護計画へと繋げている。 (外部評価) 職員が1人か2人の利用者を担当し、利用者や家族の意向を丁寧に聞き介護計画に反映しており、実現可能な計画内容になっている。毎月のケア会議で話し合い、3か月毎にモニタリングを行い見直しをし、新たな介護計画は家族の面会時に説明しており、意見などがある場合は追記している。また、会議録は充実した内容となっており、職員全員で回覧し共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の関わりの中で気づきを具体的に生活記録に記載している。申し送り・ミーティング時に話し合いを持ち、ケアプランの見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じ訪問看護など臨機応変に対応を心掛けている。専門医の受診が困難な方は往診を依頼できる体制をとっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 定期的に訪問美容を利用している。ボランティアの方など地域の方々と交流を持てる様にしている。消防署の協力を得て避難、応急手当講習を定期的に受けている。地元消防団、婦人防災クラブの協力体制を築けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居時に、ご本人とご家族の方に相談し、主治医を決めてい る。必要時には本人、ご家族、主治医と相談し専門医療機関 を受診している。歯科・皮膚科受診困難な方には往診をお願い している。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医が継続できるよう支援 している。定期的な受診には家族が付き添い、診療情報が必要 な場合は職員も同行している。また、通院が困難な利用者は 内科、歯科や皮膚科など、往診による治療を受けることが できる。利用者は感染症予防のための予防接種、手洗いやう がいを行ってほかに、定期検査等を受けるなどし健康維持を 図っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師との契約により支援を行っている。健康状態など全職 員が気を配れる様に、医療ノートを個別化しており、情報を 共有し意見や相談が出来る様に努めている。訪問看護を必要 とする場合も全職員が情報の提供をできるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院中、退院後にも利用者の方や家族の方が心できるよう に、職員が交代で出向くようにしている。また早期退院に向 け病院関係者と話し合いの機会を持つようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時にも終末期のホームでの取り組みを説明している。終 末期だけでなく運営推進会議等で看取りケアについての話し 合う機会を持っている。また、その状況に至った場合には家 族・医師・ホームで話し合いをもち、お互いの理解の中で家 族の協力、職員のチームケアが出来るように取り組んでい る。状況の変化に応じ話し合いを行っている。 (外部評価) 入居時に「重度化対応・終末期における介護（看取り）指 針」に沿い、利用者や家族に説明し意向を確認している。協 力医は頻りに事業所を訪れるなど、24時間医療体制が整っ ているため、職員は心強く利用者や家族は安心している。事 業所では6名の看取り経験があり、家族の協力を得ながら穏 やかで自然な最期を看取ることができており、職員の自信に もなっている。医療行為が必要となった時は協力医と話し合 い、入院治療が受けられるなど支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時マニュアルを備えている。ほとんどの職員が普通救命講習を取得しているが、消防署の協力の下、応急手当の訓練を行い、しっかり対応できるようにしている。消防署主催の研修にも参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行っている。災害時には地元の消防団・婦人防災クラブの方に協力して頂ける事になっている。食料や水の備蓄は常に行っており、災害時は地域の方を受け入れる体制も出来ている。警備会社との契約もしている。 (外部評価) 災害時に婦人防災クラブや消防団の協力が得られるよう話し合いができており、事業所の内部構造を理解してもらうなど、緊急時連絡先にも登録されている。今回、東北のグループホームでの水害を教訓に、近くの川の水害を想定し1階から2階へ避難する訓練を行い検証している。また、近所に住む要援護者などの一次避難先として広報を行うほか、備蓄品も十分整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 各入居者の方の性格を考慮した上で、話し方、呼び方、声掛けの仕方などに気を付けている。出来ることなどを行って頂き、本人の自信へと繋がるよう努めている。 (外部評価) 居室の入口に好みの暖簾を飾ったり声かけや言葉遣いに気をつけるなど、利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを損ねることのないよう配慮している。呼称は利用者が希望する呼び方で呼んでおり、日常生活でできていたことができなくなっても自信喪失につながらないよう職員が優しく寄り添い支援している。また、褒め言葉を上手に使ったり感謝の言葉はきちんと伝えるようにしている。食事中こぼした野菜をさりげなく処理している職員の様子から利用者に羞恥心を感じさせない心遣いが窺えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃よりコミュニケーションを大切にし信頼関係を築き、利用者の方が希望や意見を話しやすい環境作りに努めている。自己決定が出来ない方に対しては表情などを見て、気持ちを汲み取る努力をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の方の体調や状態に合わせて起床時間、食事の時間など考慮している。個々にあった一日の過ごし方を考えた支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 日常雑貨品や洋服、化粧品などはご本人の希望に合わせて購入している。ヘアカットや毛染めなどは訪問美容室を利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は、スタッフが間に入り、話題の提供を行うなど利用者の方が楽しく食事出来る様に努めている。日常支援より盛り付けや準備、お盆拭きなどの役割が出来ている。今後、利用者の方の希望のメニューを聞いてメニュー作りを行っている。 (外部評価) 利用者の希望を取り入れ職員が交代で献立を考え、各ユニットで調理している。当日は焼き魚、野菜の煮物、具だくさんの味噌汁で季節感あふれる献立となっており、利用者みんなが「おいしい」と満足していたのが印象的であった。職員も一緒に食卓を囲み利用者と和やかに会話をしながら楽しい雰囲気です。また、誕生日には、赤飯、寿司、うなぎ、すき焼きなど利用者の好みのメニューにするなど要望に応じている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、必要に応じて水分摂取量を記録している。利用者の方の状態によって食事形態を考慮している。必要時には食べやすい容器なども使用している。居室においても水分補給が出来る様にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で歯磨き・口腔ケアが行えるよう声掛けを行っている。出来ない方は口腔ティッシュを使用し、清潔の維持が出来るよう努めている。口腔内に異常があれば往診の際などの相談をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄時チェック表を利用し、個人の排泄時間を把握し排泄状況確認やトイレ誘導を行なっている。入所時はパット内への排泄が見られた方もトイレにて排泄が行えるようになった。	
			(外部評価) なるべくトイレで排泄できるよう自立にむけた支援を行っており、トイレへ行く習慣を取り戻した利用者もいる。尿意を感じない利用者は排泄パターンを把握し、時間を見計らいトイレへ誘導することによりトイレで排泄できるようになったり、車いすでもムツ使用からトイレで排泄ができるようになり利用者の表情が良くなるなど、排泄自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 全スタッフ最終排便日を把握し、起床時や日中の水分摂取に気を付け食事形態、運動などにも気を配っている。必要時には医師の指示の下、緩下剤を使用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 行事や外出時以外のご本人の希望を確認し、時間や入浴方法を決めている。無理強いをせず、時間や日をずらしたりしている。異性の介助が嫌な方は同性職員が介助にあたるようにしている。体調不良時など必要に応じてバイタルを測定し入浴を検討している。	
			(外部評価) 入浴は3日に1回を基本として、希望に応じて回数を増やすなど対応している。浴槽への移動が困難な利用者用にシャワー浴設備を整えているが、できる限り浴槽にゆっくり浸かれるよう介助している。入浴前には血圧や体温、脈拍のほか動脈血酸素飽和度を測定するなど、事故のないよう配慮している。また、入浴の苦手な利用者には、時間や日を変えるなど工夫し無理強いすることなく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 今までの生活習慣を大切に、その日の体調や前夜の睡眠状況に応じ、休息をとって頂いている。昼夜逆転が起らない様、適度な日中の活動・休息を支援し夜間ゆっくりと休息がとれるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服薬の目的・副作用・用法・容量を理解するように努めている。飲み忘れや誤薬を防止するため薬袋に日付・氏名を記入したうえで、手渡し、内服までの確認を行っている。バイタルや体調の状況を記録し、医師に報告・相談をしている。内服に変更があった場合は、体調を伺ったりしっかりと観察をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の能力に応じ、日常の家事（洗濯物干し、たたみ、料理盛り付けなど）を行って頂いている。食事の準備なども出来る範囲で行って頂けるよう努めている。買い物時には煎餅など個々の好みの嗜好品を購入している。水分補給時は好みの飲み物を選んで頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月に一度レクリエーション（行事）の計画を立てている。より多くの家族の方に参加して頂ける様に日頃からより良い関係作りに努め、夏祭りなど一緒に楽しんで頂いている。ご家族と外出できるよう支援している。 (外部評価) 天候の良い季節には、近くにいる山羊を見るため散歩に出かけ、出会った近所の方と挨拶を交わしており、花をいただいて帰ることもある。毎月外出を計画し、買い物や回転寿司などの外食を楽しんでいる。また、移動が困難な利用者も福祉用車輻を活用しドライブに出かけられるよう支援しており、菜の花見物や花木指導センターへの遠出、夏には法人全体の祭りへの参加や、正月には椿神社や西林寺などに初詣に行くなど支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の方に了解を得て、おこずかいとして所持して頂き、買い物に行った際に使用したりしている。その後、毎月のお便りなどで何に使用したか、家族の方に報告している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があればいつでも電話を使用して頂いている。手紙や贈り物が届いた際にはお礼の手紙を出している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 壁面構成や庭にはその季節ごとの花を植えるなどして、季節感を感じられる工夫をしている。 また温度調節や1日の時間に応じた外光の取り入れや空気の入替えなど利用者の方々が居心地よく過ごすことができる様に努めている。 (外部評価) オープンキッチンのある広くて明るい共用空間には、椅子席、ソファ席や畳コーナーがあり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。掃除が行き届き、快適で居心地の良い共用スペースにはなるべく物を置かないようにしており、歩行者や車いすでも安全に移動できるよう配慮されている。廊下の壁には利用者と職員が協同で作成した月見やぶどうなど季節感のあるクラフト作品が掲げられ風情がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファで寛がれたり、リビングのテーブルでは仲の良い方が談話されたり、レクリエーションを楽しんだり、歌を唄ったりとそれぞれ思い思いに楽しく生活している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご自宅で使用されていた馴染みのものを持ってきて頂いている。ご本人やご家族と相談し自宅のような空間作りを行い、安心して生活出来るようにしている。 (外部評価) 各居室は床暖房設備が設置されており、エアコン、電動ベッドやクローゼットが備え付けられている。好みの家具やテレビを持ち込み、壁には花の塗り絵、家族の写真、ジグソーパズル作品、カレンダーや時計等を飾ったり、夏祭りですくった金魚を育てているなど、利用者一人ひとりに合ったほっとできる居心地のいい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の方の各居室に表札、写真などを貼って自分の部屋が分かる様に工夫している。トイレや風呂場など共有部分には混乱しない様、表札を付けている。車椅子の方の動線の確保を行っている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103995
法人名	株式会社ファミリーケア
事業所名	ファミリーケアなかの
所在地	松山市中野町甲293-2
自己評価作成日	平成28年8月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 9 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフ一人ひとりが、利用者様に安心して楽しく生活して頂ける様、日々の会話を大切に、笑顔や忘れず笑い声のある和やかな環境を心掛けている。また、信頼を頂けるよう、接し方に気を配っており、困りごとや希望が言いやすい雰囲気づくりに努めている。職員間で得て不得手を理解し互いフォローしながら支援にあたっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設より13年目を迎える事業所は、「利用者様やその家族の方の夢に向かい努力します」という理念を掲げ、利用者職員が笑顔で過ごし、利用者が得意としていることや能力を発揮して、一人ひとりが役割を持つことで生きがいを持って暮らせるよう支援している。職員は聞き上手に徹して利用者の思いや意向の把握に努めると共に、利用者のペースに合わせた支援を心がけている。事業所ではご近所付き合いを大切に考え、ごみ置き場を提供したり、川掃除等地区行事に積極的に参加しているほか、事業所の行事に地区の人々を招待して交流している。家族会では職員と共に食事づくりをして会食しながら懇談して親密な関係を築き、家族と職員が協力しながら利用者を支援している。また、利用者や家族の要望に応じて看取りケアに取り組み、協力医と家族の協力のもと利用者が穏やかで自然な最期を迎えることができるよう支援しており、家族に感謝されている。幅広い年齢層の職員が心を合わせて利用者本位のケアを実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ファミリーケアなかの

(ユニット名) 2階ユニット

記入者(管理者)

氏名 川本 豊

評価完了日 平成28年 8月 14日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 開設当初からの理念であり、一人ひとりの「思い=夢」を大切に日々の生活を送って頂き、地域社会と協力し支援していく様に努めている。当法人の理念・行動指針・基準を設定しており、質の向上に努めている。入社時にオリエンテーションを行い理念について話し合いの場を持っている。</p> <p>(外部評価) 「利用者様やその家族の方の夢に向かい努力します」を理念に掲げ、利用者が生きがいを持って笑顔で暮らせるよう支援に努めている。職員は利用者の背景を理解し、一人ひとりが大切にしていることや好きなことを見つけてその能力を発揮できるよう支援している。理念は玄関やユニット入口に掲示し共有している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) ごみ置き場の提供、秋祭りには地域の方々の休憩所として使ってもらい、まもるくんの家に登録し立ち寄りやすい場である様にし、また町内の川掃除も参加している。クリスマス会は近隣の方にも来て頂いている。ボランティアの方々にも来て頂いている。近くの施設のバザー等に出向き交流を持っている。</p> <p>(外部評価) 事業所は、近所付き合いを大切に考え地域住民にごみ置き場を提供したり、職員が地域の川掃除に積極的に参加している。利用者は、地方祭での神輿や獅子舞が訪れるのを心待ちにしているほか、事業所が開催するクリスマス会では近所の方がフラダンスを披露したり、児童養護施設の子どもたちの踊りがあり、一緒にケーキを食べるなど交流している。また利用者は、近くの障害者施設からバザーの招待を受け、小遣いを持って出かけるのを楽しみにしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 利用者のご家族様の知人などの相談を受けている。認知症、介護方法などで悩んでいる方の相談の場として、運営推進会議や家族会に参加出来る様、窓口を広げている。認知症高齢者SO Sネットワークの説明・呼びかけも行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族、介護保険課、地域包括、近隣住民に参加をして頂き、状況報告、加算、食事メニュー、看取り介護、SOSネットワークなどについて話し合い、意見を頂いている。また、お花見、クリスマス会の時に運営推進会議を行いご家族間や地域の方々との繋がりを深めるようにしている。他施設利用のご家族の話聞かせて頂き、質の向上に努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議では、利用者の状況、活動状況や研修報告を行い意見交換を行っている。近隣住人から家族が他事業所を利用したの感想等話をもらい、改めて家族の思いや利用者の権利について考える機会にしている。また、多くの家族に参加してもらうため、花見やクリスマス会を同時に開催するなど、家族間や職員との交流の機会を持って親睦を深める取組みを行っている。会議は共用スペースで行っており、出席できない職員も仕事をしながら、様子を伺うことができる。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>介護保険課や地域包括の方に運営推進会議に参加して頂き、相談・助言を頂いており、その場で分からないことは持ち帰り適切な助言を頂いている。また必要に応じ電話にて相談をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>市や地域包括支援センター職員は運営推進会議に参加して事業所の実情を把握している。市担当者とは顔見知りの関係になっているため、介護保険制度等分からないことは電話で問い合わせをするなど指導してもらっている。地域包括支援センターとは事業所の空き状況等について情報交換などを行っている。また、市生活福祉担当者は年2回来所し利用者の状況の確認を行う等の支援を行っている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>施錠はせず、気候の良い時期には、ホールの入り口を開放している。研修への参加も行い、その後、勉強会を開いており、拘束の理解は出来ている。やむを得ない時の手続きも理解しているが、問題点は解決するように努め、拘束は行っていない。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所では職員に身体拘束についての認識を持ってもらうため、年1回研修を行っている。玄関は日中施錠せず自由に出入りができるようになっている。転倒の危険が予測される利用者には、家族の了解を得てセンサーマットを使用したり、ドアノブに鈴をつけて転倒防止に努めている。利用者が夜自然に睡眠できるよう、日中は活動的に過ごし必要以上服薬しなくてよいよう支援している。また、言葉の拘束についても留意し、不適切な声かけを行わないよう職員間で確認するほか、ミーティング等でも話し合っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し幅広い視点より虐待について意識するようにしている。不適切と思われる言動がみられた場合は職員間で注意をするようにしている。また、利用者の方への心身の異常にも気を付けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 十分な理解は出来ていない。不明な点は市・社協に相談をしている。現在、活用している方はいないが、今後の為、十分な知識が必要と考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に利用者の方や家族の方に分かりやすい説明を心掛けており、納得して頂けるよう努めている。後日、不明な所などあれば随時説明を行っている。法改正など変更が生じる際には速やかな対応と説明を十分に行っており、運営推進会議の際に再度詳しく説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議にご家族、地域の方々に参加して頂き、ご意見、ご要望を頂いている。また面会時には利用者の方の様子を説明し、ご家族のご意見やご要望を伺い、全スタッフに申し送りをし、想いを共有している。ご家族の方のご意見やご要望を伺い、ミーティングなどの際に話し合い、検討しより良い支援に繋がる様、努めている。必要時にはご家族と話し合う機会を作っている。 (外部評価) 職員は家族と良好な人間関係を持ち、共に支援していきたいと考えており、家族が意見を言いやすい環境づくりに努めている。運営推進会議で、新入職員が誰か分かり難いという家族の意見を受け、事務所横に顔写真と一言紹介文を掲示する等、速やかに対応している。また、年2回家族会を開催し、会食や懇談をしながら意見を聞くよう工夫している。県外に住む家族へは毎月の便りに手紙を添えて送り、関係が途切れないよう配慮しているほか、退所した利用者家族との交流も継続しており関係の深さが感じられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 思いや意見を言いやすい環境作りに努めている。意見箱も設置しており、職員が直接本社へ意見が出来る様になっている。本社と直接、話しが出来るよう機会も作っている。 (外部評価) 職員は管理者を信頼しており関係も良好で、意見や提案も気兼ねなく出すことができています。高額な感染防止機能の高いマスク等の購入希望を管理者に進言し、実現に至った例もある。また、後輩職員の手本になるような長年勤務のベテラン職員も多く、的確なアドバイス等がもらえるので職員の資質向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 半年ごとに自分で目標を立て個々の進み具合を確認出来るシステムがあり個人のスキルアップを図っている。それらにて給与の見直しに反映している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内研修・外部研修の案内を職員に伝え希望者、または必要と思われる職員には受講できるよう考慮している。また、研修報告を行い全員のスキルが高まるようにしている。新人職員には、今、目標とする事を示しスキルアップにつなげている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議参加の案内はしているが出席はして頂けていない。他事業所との繋がりを持てるよう連絡会には参加するようにしている。研修時には他事業所とも交流を持つようにしている。他施設をご利用のご家族の話を聞かせて頂き、サービスの向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前にはご本人、ご家族の方にホームを見学して頂き、話し合いの場を設けている。ホームに来られない方には訪問し、お話をさせて頂いている。ホームで安心して生活して頂けるようご本人の要望、不安など言いやすい環境づくり・ご利用者同士のより良い関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に面談し、ご家族の要望をしっかりと聞き取り知り得た情報は職員全員が理解と共有を行い、安心して頂けるよう支援する。気になる事があればその都度ご本人、ご家族様へ報告を行い速やかに対応を行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人、ご家族様の希望を面談時にしっかりと聞き取り、今、必要としていること、出来る事、出来ない事を見極め支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中で個々の能力にあったお手伝いや出来る事をして頂いており、その中で役割が出来ている。家事などの手伝いが嫌いな方には、話題の提供などを行い、楽しい時間を過ごせる様に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月のお便りやブログなどで近況を報告したり、外出行事、お花見、クリスマス会には手伝って頂き、職員や家族間同士の繋がりを持てるようにしている。家族様との連絡を密に取り合い、様々な問題を共有しながらより良い支援が出来るように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 遠方より送り物が届いた際には、電話にて話して頂いている。クリスマス会にて交流を持ったお子さん達へ手紙を出している。ご家族と外出が出来るよう、また馴染みの場所に行けるように支援している。携帯電話にて自由に話もされている。 (外部評価) 昔から通い慣れた美容室へ職員が付き添い出かけたり、家族の同伴で理髪店に行くなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。携帯電話を持っている利用者は、友人知人と話しをすることができ、訪ねてきた友人と居室でゆっくりくつろぐことができている。家族の協力により法要のための帰宅や外泊する利用者もいる。また、近隣の児童養護施設の子どもの来訪や手紙のやりとりがあるなど、新しい馴染みの関係もできている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 他者と一緒に料理の下準備、野菜の皮むきなど出来る事を行い、出来ない事は、利用者同士で協力している。家事の苦手な方には話題を提供したり、レクリエーション等にて利用者さん同士で交流を持てる様に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 記録などは規定に基づき保存し、いつでも提供できるようにしている。また、ホームを出られた方にはいつでも相談を受けられる体制を整えている。退所された方ともお付き合いを大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの意志を尊重し相談事などは居室内で話し合っている。職員全員が利用者の思いや意向について把握するように努めている。意思表示が困難な方は、ご本人の視点に立ってご家族や職員間で話し合いを行っている。追記シートを新たに作り、気づきを記入し全職員の情報の共有ツールとなっている。	
			(外部評価) 職員は利用者の思いを聞き逃さないよう、常に注意を払っており聞き上手に徹している。風呂は何でも言いやすい環境のため、入浴介助のタイミングを見計らい浴室で聞くこともある。知り得た要望等は申送りシートに記載し職員間で共有しており、実現に向けて業務に励んでいる。把握するのが難しい利用者は、家族に聞いたり日頃の様子の変化などから判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者の入所前の生活歴や入所に至った経緯など、話し合いの中から知り、職員がご家族の方と良い関係が築ける様に努め、入所後も本人やご家族の方との話合いで新たな情報を共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個々の生活リズムを全職員が理解し、心身の変化に気付くように努めている。何かあれば申し送りなどで話し合いを行い心身の状態把握に努めている。出来る事（出来るようになった事）・出来ない事（出来なくなった事）など見極めるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ご本人・ご家族の想いや意見、要望を伺い、話し合いの中でケアプランを作成している。必要に応じて見直しを行っており、ケアプラン変更時は、A, B, Cで評価(A達成・B継続・C出来ていない)している。モニタリングの内容もケアプランに記入し、経過や結果を分かりやすくし、次回の介護計画へと繋げている。</p> <p>(外部評価) 職員が1人か2人の利用者を担当し、利用者や家族の意向を丁寧に聞き介護計画に反映しており、実現可能な計画内容になっている。毎月のケア会議で話し合い、3か月毎にモニタリングを行い見直しをし、新たな介護計画は家族の面会時に説明しており、意見などがある場合は追記している。また、会議録は充実した内容となっており、職員全員で回覧し共有している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の関わりの中での気づきを具体的に生活記録に記載し、申し送り時やミーティングに話し合い、日々のケアを行っている。また介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 必要に応じ訪問看護など臨機応変に対応を心掛けている。専門医の受診が困難な方は、受診を依頼できる体制をとっている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 定期的に訪問美容を利用している。ボランティアの方など地域の方々と交流を持てるようにしている。消防署の協力を得て避難、応急手当講習を定期的に受けている。地元消防団、婦人防災クラブの協力体制を築けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居時に、ご本人とご家族の方に相談し、主治医を決めてい る。必要時には本人・ご家族・主治医と相談し専門医療機関を 受診している。歯科・皮膚科受診困難な方には往診をお願いし ている。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医が継続できるよう支援し ている。定期的な受診には家族が付き添い、診療情報が必要な 場合は職員も同行している。また、通院が困難な利用者は内 科、歯科や皮膚科など、往診による治療を受けることができ る。利用者は感染症予防のための予防接種、手洗いやうがいを 励行するほか、定期検査等を受けるなどし健康維持を図ってい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師との契約により支援を行っている。健康状態など全職員 が分かりやすく把握し体調管理ができるように医療ノートを個 別化している。訪問看護を必要とする場合も全職員が情報の提 供を出来るようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院が必要とされる時は主治医に手配をお願いしている。主治 医や入院先の医師の方と情報共有や相談を行っている。入院時 は病院側との話し合いを行っている。また、頻繁に面会に行き 情報を頂いている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時にも終末期のホームでの取り組みを説明している。終末 期だけでなく運営推進会議等で看取りケアについての話し合う 機会を持っている。また、その状況に至った場合には家族・医 師・ホームで話し合いをもち、お互いの理解の中で家族の協 力、職員のチームケアが出来るように取り組んでいる。状況の 変化に応じ話し合いを行っている。 (外部評価) 入居時に「重度化対応・終末期における介護（看取り）指針」 に沿い、利用者や家族に説明し意向を確認している。協力医は 頻繁に事業所を訪れるなど、24時間医療体制が整っているた め、職員は心強く利用者や家族は安心している。事業所では6 名の看取り経験があり、家族の協力を得ながら穏やかで自然な 最期を看取ることができており、職員の自信にもなっている。 医療行為が必要となった時は協力医と話し合い、入院治療が受 けられるなど支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時マニュアルを備えている。ほとんどの職員が普通救命講習を取得しているが、消防署の協力の下、応急手当の訓練を行い、しっかり対応できるようにしている。消防署主催の研修にも参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行っている。災害時には地元の消防団・婦人防災クラブの方に協力して頂ける事になっている。食料や水の備蓄は常に行っており、災害時は地域の方を受け入れる体制も出来ている。警備会社との契約もしている。 (外部評価) 災害時に婦人防災クラブや消防団の協力が得られるよう話し合いができており、事業所の内部構造を理解してもらうなど、緊急時連絡先にも登録されている。今回、東北のグループホームでの水害を教訓に、近くの川の水害を想定し1階から2階へ避難する訓練を行い検証している。また、近所に住む要援護者などの一次避難先として広報を行うほか、備蓄品も十分整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの性格を理解した言葉掛けを行っている。好ましくない声掛けには、職員間で注意を行っている。相談事などは居室にて傾聴している。失禁などが見られた時は静かに速やかな対応を行っている。 (外部評価) 居室の入口に好みの暖簾を飾ったり声かけや言葉遣いに気をつけるなど、利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを損ねることのないよう配慮している。呼称は利用者が希望する呼び方で呼んでおり、日常生活でできていたことができなくなっても自信喪失につながらないよう職員が優しく寄り添い支援している。また、褒め言葉を上手に使ったり感謝の言葉はきちんと伝えるようにしている。食事中こぼした野菜をさりげなく処理している職員の様子から利用者に羞恥心を感じさせない心遣いが窺えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃よりコミュニケーションを大切に信頼関係を築き、利用者の方が希望や意見を話しやすい環境作りに努めている。自己決定が出来ない方に対しては表情などを見て、気持ちを汲み取る努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の方の体調や状態に合わせて起床時間、食事の時間など考慮している。個々にあった一日の過ごし方を考えた支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 美容師に定期的に来てもらっている。化粧品などもご本人の希望に合わせて購入している。買い物時には好みの服も購入している。介助の必要な方もどの服にするか呼びかけをおこなっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 昼食時に各テーブルにスタッフが座り、楽しい話題、雰囲気の中で、食事をしている。下膳、テーブル拭きなど出来ることをして頂いている。食事の準備も手伝って頂き、毎日ではないが、おやつ作りも職員と一緒にしている。誕生日を迎える利用者さんに好みのメニューを聞き、提供するようにしている。 (外部評価) 利用者の希望を取り入れ職員が交代で献立を考え、各ユニットで調理している。当日は焼き魚、野菜の煮物、具だくさんの味噌汁で季節感あふれる献立となっており、利用者みんなが「おいしい」と満足していたのが印象的であった。職員も一緒に食卓を囲み利用者と和やかに会話をしながら楽しい雰囲気ですべてを食べている。また、誕生日には、赤飯、寿司、うなぎ、すき焼きなど利用者の好みのメニューにするなど要望に応じている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事及び水分摂取量の確認を行っている。一人ひとりの状態により食事量の調節を行っている。その方に合った食事形態（刻み食、とろみ使用など）にしている。居室においても水分補給ができるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアが習慣となるように支援をしている。義歯の方は一晩洗浄剤にて洗浄して頂くよう声掛けを行っている。義歯を使用していない方には口腔洗浄液にて清潔を維持している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表に記入を行い、個々の排泄時間を把握する様に努めている。入院をされテープ止めを使用されてた方もトイレ誘導にて排泄の習慣をとり戻すことが出来た。また、尿意が分からない方にはトイレにて排泄が出来るように誘導をしている。 (外部評価) なるべくトイレで排泄できるよう自立にむけた支援を行っており、トイレへ行く習慣を取り戻した利用者もいる。尿意を感じない利用者は排泄パターンを把握し、時間を見計らいトイレへ誘導することによりトイレで排泄できるようになったり、車いすでオムツ使用からトイレで排泄ができるようになり利用者の表情が良くなるなど、排泄自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 全スタッフが最終の排便日を把握している。食事形態・水分摂取量に気を付けたり、ヨーグルト等の乳製品を提供している。また、適度な運動により自然排便を促すように努めている。便秘気味の方には必要に応じて医師の指示の下、緩下剤を使用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時間など出来るだけ本人の希望に沿うように努めている。安心・安全な入浴が出来るように同性職員の介助の希望に対応している。また、介護度の高い方には、二人介助を行っている。バイタルも考慮したうえで入浴の声掛けを行っている。 (外部評価) 入浴は3日に1回を基本として、希望に応じて回数を増やすなど対応している。浴槽への移動が困難な利用者用にシャワー浴設備を整えているが、できる限り浴槽にゆっくり浸かれるよう介助している。入浴前には血圧や体温、脈拍のほか動脈血酸素飽和度を測定するなど、事故のないよう配慮している。また、入浴の苦手な利用者には、時間や日を変えるなど工夫し無理強いすることなく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 年齢や体調を考慮し、日中出来るだけホールにてお話をしたりお手伝いをして頂き、夜間安眠出来るように支援をしている。その日の体調や前夜の睡眠状態に応じて休息を取って頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服薬の目的・副作用・用法・容量を理解するように努めている。飲み忘れや誤薬を防止するため薬袋に日付・氏名を記入したうえで、手渡し、内服までの確認を行っている。バイタルや体調の状況を記録し、医師に報告・相談をしている。内服に変更があった場合は、体調を伺ったりしっかりと観察をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 水分補給時は好きな飲み物を選んで頂いている。洗濯干し、おぼん拭き・テーブル拭きなど役割を持って頂いており、体調の良い時には、料理の下準備も手伝って頂いている。外出時に好きな物を購入したり、食べたい物や欲しい品がある時は、個々にスーパーへ注文もしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) まんねりにならないように年間行事を立てており、利用者のペースやレベルに応じた外出を行っている。長時間離床が困難な方には庭にて外気浴の時間を提供している。ご家族と外出できるように支援している。	
			(外部評価) 天候の良い季節には、近くにいる山羊を見るため散歩に出かけ、出会った近所の方と挨拶を交わしており、花をいただいて帰ることもある。毎月外出を計画し、買い物や回転寿司などの外食を楽しんでいる。また、移動が困難な利用者も福祉用車両を活用しドライブに出かけられるよう支援しており、菜の花見物や花木指導センターへの遠出、夏には法人全体の祭りへの参加や、正月には椿神社や西林寺などに初詣に行くなど支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人の希望を聞き、ご家族に相談のうえ、金銭の所持や支払を行えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話での家族の交流の継続に努めている。届け物あった際は必ず電話にてお話しをして頂いている。近隣の方より贈り物があった際は皆でお礼の手紙を出している。携帯にて自由に話しもされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室入口に暖簾をかけプライバシーを保てるようにしている。テレビの音量・ホールの温度設定も気を付けている。季節感のある壁画作りを行っている。季節に応じて外光や風などを感じられるように努めている。 (外部評価) オープンキッチンのある広くて明るい共用空間には、椅子席、ソファ席や畳コーナーがあり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。掃除が行き届き、快適で居心地の良い共用スペースにはなるべく物を置かないようにしており、歩行器や車いすでも安全に移動できるよう配慮されている。廊下の壁には利用者と職員が協同で作成した月見やぶどうなど季節感のあるクラフト作品が掲げられ風情がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 座椅子やソファにて寛がれる方、リビングのテーブルにて仲の良い方同士でお話しをされたり、思い思いの時間を過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅で使っていた愛着のある物を持ってこられている。ご家族の写真を壁に張っている。ベッド・タンス等の配置もご家族・ご本人と相談し自宅のような空間作りに努めている。ご本人の希望や使い勝手により配置換えも行っている。 (外部評価) 各居室は床暖房設備が設置されており、エアコン、電動ベッドやクローゼットが備え付けられている。好みの家具やテレビを持ち込み、壁には花の塗り絵、家族の写真、ジグソーパズル作品、カレンダーや時計等を飾ったり、夏祭りですくった金魚を育てているなど、利用者一人ひとりに合ったほっとできる居心地のいい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の各居室に表札・写真などを貼って自分の部屋が分かるように工夫している。トイレ、風呂場など共有部分には混乱しないように表札を付けている。車椅子の方の動線の確保を行っている。	